

## 教員の魅力 尾木さん語る

### 愛教大 養成課程3年生らに

本紙で教育相談を担当し「尾木ママ」の愛称でもおなじみの教育評論家、尾木直樹さん(セシ)が三十日、刈谷市の愛知教育大で初めて講演した。

昨秋に幼稚園や小中学校、高校で教育実習を終えた教員養成課程三年生への事後指導の一環として、改めて教員の魅力を知ってもらうと後藤ひとみ学長が企画。「教員をめざすあなたへ 次世代の教師に期待すること」がテーマで三年生をはじめ大学院生、教職員ら約千人が耳を傾けた。



学生たちに教員を志したきっかけを語る尾木さん  
＝刈谷市の愛知教育大で

四十四年間教壇に立った

尾木さん。中学時代に体罰を受けたことや教員とのトラブルを原因に高校で留年したこと、元々は教師になるつもりはなかった」と回想。「嫌な思いを

したからこそ、問題を抱える子の気持ちが分かる良い先生になれる」という母親の助言をきっかけに教職を志したことを明かした。

「教師は子どもの理解者で代弁者。殴ることは最低で、あつてはならない」と断言。「問題を起こした子には『どうしたの?』とまず理由を聞いて、受けとめ

てあげて」と求めた。

常勤の専門職が子や親の悩みに対応する名古屋市の取り組み「なごや子ども応援委員会」などを例に、「愛知は教育の最先端」と指摘。「皆さんは未来を切り開こうとしている自治体にいる。自分も今では、あの世でも先生をやりたいと思っているので、ぜひ目指して」と語り掛けた。(神谷慶)